



【感染症対処基幹要員養成訓練】

平成30年11月15日・16日

自衛隊札幌病院（病院長 大鹿陸将）は、平成30年11月15日（木）から16日（金）までの間、平成30年度第2回感染症対処基幹要員養成訓練を実施しました。

本訓練は、企画室長（副院長 菊池将補）を訓練担任官とし、**新型インフルエンザ等の強毒性感染症対処における初動態勢の確立に寄与することを目的**として、各部等における**感染症対処基幹要員の養成及び練度維持のため、感染症対処資器材操作及び感染防護具（PPE：personal protective equipment）着脱等の訓練**に、院内から約60名が参加、また、部隊・医務室等から10名が研修しました。感染症対処資器材のエアドーム内において、数名の訓練参加者が**アイソレータ内部での患者の収容状態を体感するとともに、ストレッチャーによりアイソレータに収容された患者を安全確実に救急車に搭載卸下する要領**について体験しました。

PPE訓練では、手順をひとつひとつ確認しつつPPEを装着し、**脱衣の際に、事前に手袋に塗布した模擬汚染物質（蛍光塗料）が身体に付着していないかブラックライトを照射して確認し、脱衣が適切であったか評価**し合うとともに、**感染対策マスク（N95マスク）の密着性確認（フィットテスト）**等の正しい装着脱について2日間にわたり反復演練して、PPE及びN95マスクそれぞれの実効性のある装着要領の修得に努めました。病院は、今後も定期的に訓練を積み重ね、感染対処能力の向上を図ります。



アイソレータ収容体験



救急車への搭載卸下



手順を確認しつつPPEを着衣



アイソレータへの収容要領展示



相互に協力しつつPPEを着衣



ブラックライト照射による適正確認



N95マスクのフィットテスト